vinetur

# カナダ、ワイン業界支援を3年間延長するため1億7,690万カナダドルを提案

## 2026年度予算案は、2027～28年度にワイン産業支援プログラムを更新し、拠出表明額を総額5億2,010万カナダドルとする案を盛り込んだ

2026年11月14日（土）



カナダ政府は11月13日（金）、2026年度予算案で、国内ワイン産業への支援を延長するため、3年間で新たに1億7,690万カナダドルを拠出する案を示したと発表した。ワイナリーや独立系ブドウ栽培農家が、コスト上昇や気候関連のリスクに対処できるよう支援する狙いがある。

政府がオンタリオ州ナイアガラ・オン・ザ・レイクとブリティッシュコロンビア州ケロウナでそれぞれ開催した行事の後に発表した声明によると、この資金はカナダ農業・農産食品省に配分され、2027～28年度からワイン産業支援プログラムを更新するために使われる。同プログラムは、カナダで認可を受けたワイナリーに直接支援を提供している。

カナダ文化遺産省によると、アダム・ヴァン・クーバーデン国務担当大臣は、ナイアガラ・オン・

ザ・レイクでJackson-Triggs Wineryの関係者や地元のブドウ栽培農家、ワイン生産者と面会した。別の声明で、防衛投資庁は、ケロウナ選出の国会議員で国防調達担当国務長官を務めるスティーブン・フーア氏が、ブリティッシュコロンビア州で同じワイン産業支援策を取り上げたと発表した。

政府は、今回提案した資金により、ワイナリーが投入コストの上昇に対応し、事業運営を安定させ、地元の独立系栽培農家からブドウを買い続けられるようにすることを目指すと説明した。また、この措置を、成長、生産性、貿易の多角化、雇用に重点を置く2026年度予算案のより広範な経済計画の一環と位置づけた。

今回の提案により、オタワがすでに同プログラムに約束している3億4,300万カナダドルに資金が上積みされ、ワイン産業支援プログラムを通じた拠出表明額は、8年間で総額5億2,010万カナダドルとなる。政府によると、カナダのワイン産業は国内経済のうち101億カナダドルを占める。

この発表は、カナダの複数の地域でワイン生産者が、インフレや市場環境の変化、ブドウの収穫に影響を及ぼしてきた度重なる異常気象に直面するなかで行われた。連邦政府は、新たな資金により、国内産業が続く経済的・気候的課題に適応できるよう支援するとともに、地方の雇用を守り、アグリツーリズムを後押しするとした。

農業・農産食品大臣のヒース・マクドナルド氏は、ワイン産業は全国で雇用や企業、地域経済を支えており、プログラムの延長が業界の強靭性と競争力を高めると述べた。ヴァン・クーバーデン氏は、同産業は地域の成長と観光を支える存在だとし、連邦政府の支援によってワイナリーや栽培農家が競争力を維持し、新たな機会を追求できると語った。

業界関係者は提案を歓迎し、ワイナリーが投資に踏み切るうえで、より大きな安心感につながると述べた。Wine Growers Canada会長でArterra Wines Canadaの副社長を務めるデル・ロロ氏は、プログラムの更新がブドウ栽培農家や地元生産、業界に関わる地域社会を支えると語った。ブリティッシュコロンビア州では、Wine Growers British Columbiaの最高経営責任者ジェフ・ギニャール氏が、この拠出により、数年間にわたる困難を経たワイナリーの再建と事業拡大が後押しされると述べた。

ブリティッシュコロンビア州のDirty Laundry Wineryのポール・ソーラー氏は、既存のプログラムが、生産者がコスト上昇などの負担に直面するなかで、資金面の柔軟性をもたらしてきたと語った。さらに、プログラムが3年間延長されれば、ワイナリーが事業運営や投資の計画を立てやすくなると述べた。

カナダの生産者が小売店の棚の確保や消費者需要をめぐって競争するなか、今回の措置は、ブドウの生産計画や買い付けの安定性を高める可能性があり、ブドウ産地以外にも影響を及ぼす。連邦政府の支援がより予測しやすくなれば、国内ワイン生産者が輸入ワインに対して市場シェアを守る助けにもなり得るが、その効果は最終的なプログラムの規則や市場環境次第となる。

連邦政府の声明では、更新後のプログラムにおける対象要件の変更や資金配分の算定方法など、詳細は示されなかった。資金はカナダ農業・農産食品省を通じて配分され、引き続きカナダで認可を受けたワイナリーを支援対象とするとの説明にとどまった。

ナイアガラでは、セントキャサリンズ選出のクリス・ビトル国会議員が、プログラムの更新は地域のワイナリーや観光関連事業、雇用を支えると述べた。ケロウナではフーア氏が、延長によって業

界の成長が促され、ブリティッシュコロンビア州内およびカナダ各地の地域社会の経済発展に貢献すると語った。

この提案は現時点で2026年度予算案の一部であり、連邦予算の手続きを経る必要がある。提案どおりに承認されれば、新たな資金の拠出は2027～28年度に始まり、3年間続く。

ワイナリーやブドウ栽培農家にとって、支援の開始時期は重要だ。カナダのワイン産地では、変動の大きい収穫状況や、労働力、資材などの投入コスト上昇に対処するなか、長期的な見通しを求める声が上がっている。連邦プログラムが更新されても、こうした圧力がなくなるわけではないが、生産者が作付け量や地元産ブドウの購入量、生産・観光施設への投資額を決めるうえで、より明確な計画期間を得られる。

政府が地元産ブドウの買い付けを重視している点は、経営状況がワイナリーの購入判断に大きく左右される独立系栽培農家にとっても重要だ。国内生産とプログラムを結びつけることで、オタワはブドウ畑から瓶詰め工程まで、サプライチェーンの両端に支援を行き渡らせる意向を示している。

更新案の詳細をいつ公表するかについて、政府は11月13日（金）の時点で新たな日程を示さなかった。